

4つの重点プロジェクト

本市の環境の現状や、環境関連施策の動向及び計画における環境関連施策の成果や課題等を踏まえ、今後、優先的に解決すべき緊急性の高い分野や、重点的に取り組むべき分野について、4つのプロジェクトを位置づけ推進します。

1. 循環システムの整備促進プロジェクト

リサイクルプラザを資源循環型社会の拠点として、ごみ問題や環境問題についての研修・情報提供などを行い普及・啓発を図ります。

ごみの発生抑制として、過剰包装の自粛、マイバッグ運動の推進、適切な量の購入などの事業を推進します。

また、家電リサイクル法などリサイクルに関する制度、分別収集の周知・徹底など、廃棄物の発生抑制・排出抑制・再使用・再生利用の4Rを推進していきます。



2. 再生可能エネルギー率先導入プロジェクト

本市の地域特性を生かし、太陽光発電、太陽熱利用の導入を促進するため、公共施設への率先導入、住宅用太陽光発電システム設置費の補助など、全市的な普及拡大を図ります。

また、新エネルギー導入への取り組みとして廃食用油をエネルギー原料の一つとして位置付け、ごみ収集車等の燃料として再利用を促進します。

さらに、生ごみ等を貴重なエネルギー資源として着目し、これらを原料とするバイオガスシステムによるエネルギーの利用技術等を検討します。



3. 児島湖水質改善プロジェクト

児島湖の汚れは、児島湖流域市町からの生活排水が大きな原因であることから、環境基準の達成を目指して、県・流域市町が連携して生活排水等の対策を推進します。

具体的には、下水道の整備、合併処理浄化槽の普及促進、生活排水対策などの浄化対策事業を推進します。また、ヨシ原の刈取り、流域の清掃などの事業を展開し、自然とのふれあいの場の確保など環境美化を行います。



資料：岡山県ホームページ

4. 環境学習プログラム作成プロジェクト

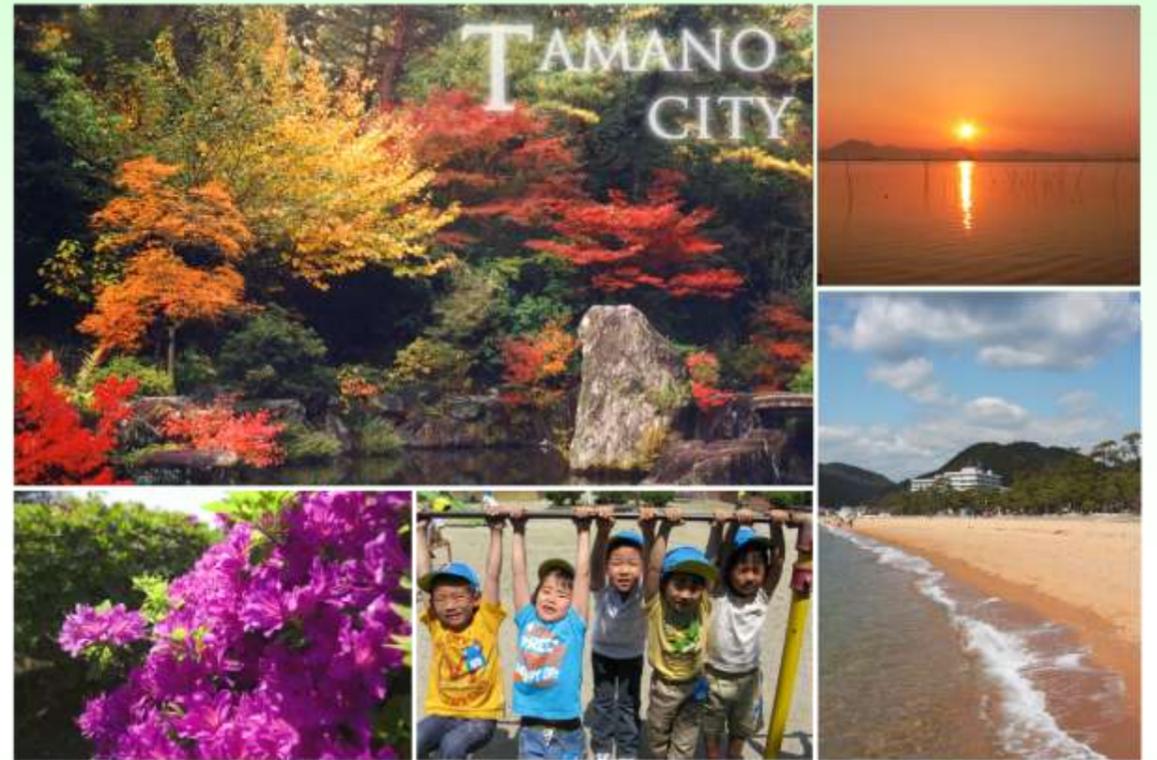
子供から高齢者まであらゆる世代に、学校や職場、地域などの生活の様々な場面において効果的に環境学習を進めるための方策や事例をまとめた環境学習プログラムを作成します。この環境学習プログラムを活用して、環境学習指導者の育成や、あらゆる場面における環境学習の推進を図ります。



新玉野市環境基本計画 概要版

～みんなで築く持続可能な環境都市 たまの～

平成24年3月



本市は、古くから造船・製錬と港のまちとして栄え、公害問題や児島湖の水質悪化等の生活環境問題に対しては、企業や市民との協働を通じて取り組んできました。

しかしながら、人の社会経済活動が世界的規模で拡大し、環境問題への対応も、従来の「公害防止」の観点だけではなく、地球環境問題を見据えながら、市民のライフスタイルや事業活動のあり方そのもののレベルでの対応が必要となっています。

そこで、本市では平成14年3月、環境保全及び創造についての基本理念を定め、市民・事業者・市の責務を明らかにするとともに、環境の保全及び創造に関する施策を総合的かつ計画的に推進するため「玉野市環境基本条例」を制定し、同年10月に平成23年度までを計画期間とした「玉野市環境基本計画」を策定しました。

この計画は、条例に掲げる基本理念のもと、環境の保全及び創造に関する施策を総合的かつ計画的に推進する目的で策定するものです。

この計画の策定期間が、本年度で最終年度を迎えるとともに、当初の策定から既に10年を経過し、環境保全に係る種々の要因に変化が見受けられることから、新たに「新玉野市環境基本計画」を策定いたしました。

安全 公害発生防止の技術導入や公共下水道等の生活環境施設の整備が一層進み、安全な生活環境が確保されています。また、家庭や事業所においては、省エネルギー機器の導入や節電、太陽光発電などの再生可能エネルギー利用が普及するなど、地球にやさしい低炭素社会が構築されています。こうした結果、台風被害など自然災害が減少し、安全な暮らしが確保されています

循環 市民・事業者等による4R（発生抑制・排出抑制・再使用・再生利用）の取組が社会に定着して、資源循環型社会が形成されています。こうした結果、ごみの排出量が大幅に減少する一方で、リサイクル率が大幅に向上し、廃棄物の不法投棄や不適正処理などがなくなっています。

共生 市民一人ひとりが自然保護の重要性を認識し、市内の優れた自然環境が保全され、多種多様な野生生物が生息・生育しています。また、将来にわたる市民共有の財産として、森林の適正な整備や保全が図られています。さらに、多くの市民が自然との日常的なふれあいを通じて、安らぎを実感しています。

安全

基本目標1 安全で快適な生活環境の保全



きれいな空気は、私たちが健康に生きていくための基本条件の一つです。大気を守るための取り組みは、本市の公害対策の原点でもあります。また、水環境の保全については児島湖の水質改善が引き続き課題であり、市民の関心も高いことから、大気の保全とあわせて、本市の環境改善のシンボリックな項目としてとらえ、同時に、県や岡山市、倉敷市、早島町など流域市町との広域的な連携が求められています。

そこで、大気や水質を保全し、安全で快適な生活環境の維持・創出を目指します。



基本目標2 地球にやさしい低炭素社会の構築

地球温暖化問題は、人類の生存基盤に関わる最も重要な環境問題の一つであり、私たちは資源やエネルギーを上手に使いながら、社会経済活動や生活様式を見直すことが求められています。

そこで、地球市民として、市・事業者・行政が協働して地球温暖化対策に取り組み、温室効果ガスの排出を大幅に削減し、地球環境にやさしい低炭素社会の構築を目指します。



基本目標5 次世代につながる市民の力の育成

地球温暖化問題やごみ問題など、現在の環境問題は人の生活様式、社会システムそのものに根ざしており、これを解決していくには、市民一人ひとりの意識と行動が変わっていくことが必要です。

そこで、本市の多様な市民の取り組みをつなげ、大きな輪にしていきます。また、環境教育をはじめとする普及・啓発などを通し、取り組みが持続的に次世代につながっていくことを目指します。



循環

基本目標3 資源がまわる循環型社会の構築



これまでの大量生産・大量消費・大量廃棄型の社会経済活動により、私たちは様々な豊かさを手に入れることができた一方で、大量の廃棄物を発生させており、廃棄物の発生抑制をはじめとする4R（発生抑制・排出抑制・再使用・再生利用）の推進が求められています。

そこで、市民一人ひとりが自然の物質循環を考慮したごみ減量化・リサイクル対策に取り組み、資源が循環する循環型社会の構築を目指します。



共生

基本目標4 自然と人が共生する自然共生社会の構築

本市では渋川海岸、王子が岳、出崎海岸、十禅寺山、金甲山、貝殻山が国立公園に指定されており、貴重な自然が豊富に存在しています。この貴重な自然を、将来の世代に受け継ぐことは、私たちの責務です。

また、人は自然の中で生かされているという認識を持ち、私たちの日常生活が自然に配慮したものになることにより、健全な生態系と生物多様性が確保されます。

そこで、自然と人との“つながり”を大切にし、自然と人が「共生」する自然共生社会の構築を目指します。

